

家庭ごみ有料化実施市町の調査結果

1 神奈川県内の家庭ごみ有料化の実施状況等

市町名	有料化開始年月	有料ごみの種別	価格一例
二宮町	平成 13 年 10 月から	可燃ごみ・資源物	20 円 / 45 L
大和市	平成 18 年 7 月から	可燃ごみ・不燃ごみ	64 円 / 40 L
藤沢市	平成 19 年 10 月から	可燃ごみ・不燃ごみ	80 円 / 40 L
鎌倉市	平成 27 年 4 月から	可燃ごみ・不燃ごみ	80 円 / 40 L
逗子市	平成 27 年 10 月から	可燃ごみ・不燃ごみ	80 円 / 40 L

2 有料化の理由・動機

市町名	理由・動機
二宮町	廃棄物の増加・多様化が著しい状況で、適正処理が全国的な課題となっていた中、ごみの減量化、分別の促進を図るため
大和市	ごみ排出量が年々増加し、実効性・即効性をもったごみ減量化の施策が必要となったため
藤沢市	ごみの発生抑制・減量・リサイクルの推進を誘導しつつ、市民の費用負担の適正・公平化につながる経済的手段として必要と考えたため（最終処分場更新の困難性等が背景）
鎌倉市	焼却停止を予定する施設で処理するごみ量を、新たな施設整備をせずに減量・資源化するとしたごみ処理基本計画（23 年 6 月）に基づき、具体的な制度構築するため
逗子市	ごみ処理広域化のめどが立たない中で、最終処分場の容量が 24 年度中に満杯になるという状況となり（一時的な延命工事を行ったが、今後も多額の費用をかけた延命策が必要）、ごみ減量・資源化が喫緊の課題となったため

3 実施時のごみ処理の現状・課題

(1) 排出量と処理経費

市町名	排出量と処理経費	
二宮町	排出量	有料化を契機にごみ排出量は減少し目標も達成
	経費	排出量当たりの経費は横ばい。広域化によるスケールメリットを生かした経費削減が課題。

市町名	排出量と処理経費	
大和市	排出量	年々増加傾向にあった。
	経費	ごみ量増に伴い増加し大きな財政負担に
藤沢市	排出量	12年度から増加に転じた後、横ばいで推移。組成分析により、可燃ごみに22%、不燃ごみに14%の資源混入がみられ、分別の推進が課題。
	経費	一般会計に占める清掃費の割合は5~7%で推移、13年度以降は焼却施設の老朽化により整備費増。人件費は退職者の不補充や委託拡大により減少。
鎌倉市	排出量	分別品目の拡大によりごみ焼却量共に減少、18年度からほぼ横ばいで年間約40,000t。今泉クリーンセンターを26年度に停止し10年間の延命工事をした名越クリーンセンターで単独処理する予定。今泉CC処理分(約1万t)の減量が必要。
逗子市	排出量	平成17年度以降は、近隣との広域処理の検討により大幅な分別品目の変更が行えない状況でごみ量は横ばいで推移、事業系ごみ手数料等を見直した24年度は対前年度比1,500t減少。最終処分場延命化にはさらなる減量が必要。
	経費	24年度のごみ処理経費は約9億8,200万円で一般会計に占める割合は5.1%。老朽化に伴う施設整備費等により中間処理費が大きく上昇。

(2) 家庭ごみ処理の現状・課題

市町名	ごみ処理の現状・課題
二宮町	町指定ごみ袋が従量料金体系となっておらず、大袋で排出した場合、割安となっているため見直しの必要性あり
大和市	資源分別、可燃ごみ・不燃ごみへの資源混入防止等の不徹底
藤沢市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収集場所の維持管理に関する住民間の不公平感や困難性 ・ 不適正排出に対する指導の困難性 ・ 事業系ごみの混入

市町名	ごみ処理の現状・課題
鎌倉市	<ul style="list-style-type: none"> ・一部収集場所でカラスによる被害 ・事業系ごみの排出 ・収集場所の維持管理を行わない他地区住民による排出
逗子市	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ処理容器等購入費助成事業は 18 年度以降横ばい ・紙類回収量は 17 年度以降減少の一途

(3) 中間処理及び最終処分における現状・課題

市町名	中間処理及び最終処分における現状・課題
二宮町	現在、全ての処理・処分を外部委託しているが、平塚市・大磯町との広域化を進め、安定的な処理並びに処理の効率化及び経費削減に取り組む必要がある。
大和市	焼却施設の容量的には対応できていたが、焼却灰の最終処分は県外埋立を多く行っていたため、特に処理費用が増加。
藤沢市	増え続けるごみに対し、焼却施設は適正な処理能力確保のため、建替え工事（昭和 59 年度稼働）及び炉の改修（平成 15 年度）・更新（19 年度）を行ってきたが、新たな最終処分場の建設は困難な状況。
鎌倉市	2 つの焼却施設とも老朽化が進み、今泉 CC は 26 年度に停止（地元との約束もあり）、名越 CC は今回の延命工事後約 10 年経過後に停止予定も新施設建設は困難。
逗子市	焼却施設（昭和 56 年稼働）は老朽化が著しいため、大規模改修を行う予定。最終処分場（平成 5 年使用開始）は転圧により埋立容積を確保したが 3 年弱で再び満杯となる見込み。

4 有料化の対象ごみ

市町名	有料化の対象ごみ		
	可燃ごみ	不燃ごみ	資源物
二宮町	○		剪定枝、草、葉
大和市	○	○	
藤沢市	○	○	
鎌倉市	○	○	
逗子市	○	○	

5 収集方法

市町名	戸別収集	ステーション回収
二宮町		○
大和市	○	
藤沢市	○	
鎌倉市		○
逗子市		○

6 手数料徴収の方法

市町名	手数料徴収の方法
二宮町	指定ごみ袋（L当たりの処理費用に10%を乗じ、ごみ袋の原価を上乗せした金額。従量制ではない）
大和市	指定ごみ袋（複数種類、量に比例し手数料が変化する従量制）
藤沢市	指定ごみ袋（複数種類、量に比例し手数料が変化する従量制）
鎌倉市	指定ごみ袋（複数種類、量に比例し手数料が変化する従量制）
逗子市	指定ごみ袋（複数種類、量に比例し手数料が変化する従量制）

7 手数料の料金体系・手数料の設定

市町名	手数料の料金体系・手数料の設定	
二宮町	4種類	20円／45L・袋、14.4円／30L・袋、11円／20L・袋、8.3円／10L・袋
大和市	5種類	64円／40L・袋、48円／30L・袋、32円／20L・袋、16円／10L・袋、8円／5L・袋
藤沢市	4種類	80円／大袋（40L相当）、40円／中袋（20L相当）、20円／小袋（10L相当）、10円／ミニ袋（5L相当）
鎌倉市	4種類	80円／40L・袋、40円／20L・袋、20円／10L・袋、10円／5L・袋
逗子市	4種類	80円／40L・袋、40円／20L・袋、20円／10L・袋、10円／5L・袋

8 手数料の使途

市町名	使 途
二宮町	ごみ減量化・再利用事業、塵芥運搬処理事業
大和市	清掃総務費、塵芥処理費、し尿処理費
藤沢市	清掃関連事業及びごみ減量・資源化に関する事業 ごみ減量・リサイクル推進を目的としたごみ減量基金への積立・運用事業
鎌倉市	発生抑制の取組、資源化の処理費用等
逗子市	ごみ減量化・資源化、リサイクルの推進、周知啓発等を目的とした清掃関連事業

9 有料化の効果

市町名	有料化の効果	
二宮町	収集ごみ量の減少（導入年度は 6,639t）	
大和市	有料化と同時に実施した戸別収集及び資源分別の指導徹底により、導入前後の比較では 30%の減量	
藤沢市	ごみ	排出量ベースで可燃ごみ 14.7%減、不燃ごみ 36.7%減で、懸念したリバウンドなし
	資源物	排出量は 0.9%減だが、資源化率は 29.1%と目標 30%まであと一歩
	不法投棄	処理件数（600 件減）、不法投棄量（60 t 減）ともに有料化実施前より減少
	手数料収入	実施～20 年 3 月まで 6 億 568 万 9 千円 20 年 4～9 月まで 約 3 億 5,400 万円
※有料化実施 3 年経過後の効果として H P で公開しているもの		
鎌倉市	ごみ	戸別収集モデル地区の実施状況では、可燃ごみ 10.7%減少、可燃ごみへの資源物混入率 1.2%減少、資源物混入量 12.3%減少
	手数料収入	4 億 5,251 万 8 千円（推計）
	収集コスト	ステーション収集 9 億 4,830 万 4 千円（23 年度ベースで推計）

